



**Data**

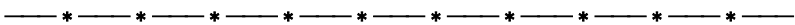
監督: 三池崇史  
出演: 窪田正孝/大森南朋/染谷将太/小西桜子/ベッキー/三浦貴大/藤岡麻美/顔正国/段鈞豪/矢島舞美/出合正幸/村上淳/滝藤賢二/ベンガル/塩見三省/内野聖陽

## 👁️👁️ みどころ

「昭和は遠くなりけり」の中、かつてのヤクザ映画はもちろん「Vシネマ」の栄光も過去のもの？すると、そんな時代を背負った三池崇史監督も賞味期限切れ？いや、彼は一方で本作を作り、他方で「さらば、バイオレンス」と宣言する中で、見事にその両者を融合させて新たな三池流バイオレンスを炸裂！こりゃ一種の詐欺だが、騙されても楽しければそれでオーケー！？

本作の登場人物は多いが、その「所属」と「キャラ」は明確。しかも、突出したキャラの数人がその役を心地よく演じ、最後までそれを貫いているから、それが一種の快感に！そんな中、初恋を貫く2人の男女は異色の組み合わせだが、ピュアさだけは十分だ。

『無限の住人』(17年)では「三百人斬り」のクライマックスが見モノだったが、本作ラストの巨大ホームセンター内での銃撃戦は過激かつ何でもありだから、それをタップリ楽しみたい。そして、その後の初恋の行方にも注目！



## ■□■テーマは純愛？さらばバイオレンス？それってホント？■□■

『初恋』というタイトルを聞けば、文学青年なら誰でもツルゲーネフの『初恋』を思い出すはず。しかし、東映配給のそんなタイトルの映画の監督が三池崇史だと聞くと、「えっ、それってホント？」と思ってしまうのは私一人ではないはずだ。本作は、「2019年カンヌ国際映画祭 監督週間正式出品」作品で、そのテーマは「最期に出会った、最初の恋」だが、チラシには「喜怒哀楽・すべてが詰まった、人生で最高に濃密な一夜を描く極上のラブストーリー」とあるから、何やら怪しげだ。そして、チラシに書いてあるストーリーは

わずか4行で次のように紹介されているだけだから、何の紹介もないのとはほぼ同じだ。すなわち、

舞台は、新宿歌舞伎町。余命いくばくも無いと知らされたプロボクサーが、逃げる少女を助けるために悪徳刑事をKOしたことから、事態は急転直下。何故か追われる身となり、ヤクザ・チャイニーズマフィア・警察組織が入り乱れ欲望渦巻く“ブツ”を巡った争いに巻き込まれる。

他方、パンフレットにある「監督 三池崇史 DIRECTOR'S INTERVIEW」によれば、本作の企画の出発点は「往年のVシネマ時代のような作品を、オリジナルの長編劇映画として作る」ことだったそうだが、三池監督は「さらば、バイオレンス」という直筆のメッセージを添えて本作を世に送り出している。しかし、Vシネマを観ても、『IZO (以蔵)』(04年)、『シネマ6』222頁、『十三人の刺客』(10年)、『シネマ25』201頁、『無限の住人』(17年)、『シネマ40』65頁)等を観ても、「三池作品からバイオレンスを引いたら何も残らない」とは言わないまでも、「三池作品からバイオレンスを引いたら、気の抜けたビールやサイダーのようになってしまう」のでは？私はそんな不安いっぱいそのまま映画館へ！

## ■□■舞台は新宿歌舞伎町！ヤクザは？ヤクは？性風俗嬢は？■□■

近時ヤクザ映画は少なくなったし、悪徳刑事ものも少なくなった。そんな時代状況の中で異彩を放ったのが、白石和彌監督が役所広司を主役に据えた『孤狼の血』(18年)、『シネマ42』33頁)だった。柚月裕子の原作をヤクザ映画の東映が(?)全力をあげて映画化した同作は近時の傑作だったが、同作は大上刑事という主人公のキャラで全編をもたせるタイプの映画。それに対して、本作は『史上最大の作戦』(62年)とまではいかないまでも、オールスター総出で物語を盛り上げていくタイプの映画だ。

本作の舞台は新宿歌舞伎町。私は新宿歌舞伎町のヤクザ事情については噂だけしか知らないが、ジャッキー・チェンがそこに目をつけ、『新宿インシデント (新宿事件)』(09年)、『シネマ34』424頁)に主演したほどだから、今やそこは日本のヤクザだけでなく中国のマフィアがいっぱい。近時分裂し対立している「山口組」は表面上は「麻薬は御法度」にしているが、それはあくまで警察の目を欺くための建前。日々の“しのぎ”だけでは十分な収入を得られない場合、つい安易な大金が儲かる薬物に活動が広がるのが現実だ。その結果、古くは清原和博騒動が、近時は沢尻エリカ騒動が・・・。

また、新宿歌舞伎町での性風俗の実態は、綾野剛がスカウトマン役を演じた『新宿スワン』(15年)、『シネマ35』未掲載)を観ればよくわかる。同作で主演した沢尻エリカは「薄幸の女」の代表ともいえるアゲハ役を儂かつ清楚に(?)演じていたが、三池監督が本作のヒロイン役として起用した小西桜子が演じる性風俗嬢・モニカの境遇は？本作の鑑賞については、まずは、新宿歌舞伎町という舞台の認識をしっかりと！

## ■□■三池監督流オールスター！各キャラの所属と肩書きは？■□■

新宿歌舞伎町を舞台にした抗争に、日本ヤクザと中国マフィアの両者が登場してくるのは当然。冒頭、刑務所から出所してきたばかりの権藤（内野聖陽）を組員が迎えるシーケンスが登場するが、この権藤はオールドスタイルの武闘派ヤクザというキャラだ。求心力に陰りを見せている組長代行（塩見三省）に代わって彼は、策略家の加瀬（染谷将太）、中堅幹部の城島（出合正幸）、核弾頭の市川（村上淳）、復讐鬼のジュリ（ベッキー）、元・半グレのヤス（三浦貴大）等をいかに率いていくの？

他方、権藤のために片腕を失ったチャイニーズマフィアのボスがワン（顔正國）。その側近であるフー（段鈞豪）の下には、チャイニーズマフィア構成員の女チアチー（藤岡麻美）らがいたが、麻薬取引を巡って両者は一触即発の状態らしい。そんな中、『孤狼の血』の主人公・大上刑事とはかなり異質で、「随刑事」と位置づけられているのが大伴（大森南朋）だ。ある日、彼が策略家の加瀬が持ち込んできた、ある「とんでもなく汚い計画」に乗ったところから、一気に物語が進んでいくことに・・・。

オールスター共演の本作は、上記のように多くの登場人物の「所属」を分けたうえで、「肩書き」(?) 通りの各キャラをしっかりと理解することが不可欠だ。本作では、大森南朋の堅実な演技は当然だが、第1に染谷将太の、あっと驚くヤクザに似合わない演技、第2にベッキーの、あっと驚く復讐鬼ぶりが強烈。さらに、第3に前半はカッコ付けばかりに見えた権藤役演じる内野聖陽が、クライマックスでは武闘派の武闘派たる姿を見事に発揮するので、それにも注目！

## ■□■主人公はプロボクサー！彼の試合は？診察結果は？■□■

「初恋」がどんな出会いから始まるかはいろいろだが、そのほとんどは割と早期に「これが俺の初恋！」と思う瞬間があるもの。また、初恋がそのまま純愛に結びつくのが理想だが、純愛が必ず結ばれるとは限らないうえ、逆に悲恋に終わることがあるのは『ロミオとジュリエット』や『ウエスト・サイド物語』を観れば明らかだ。

他方、本作の主人公は、天涯孤独のボクサー・葛城レオ（窪田正孝）。本作は、『あゝ、荒野（前篇・後編）』（17年）（『シネマ 41』50頁）のような本格的ボクシング映画ではないが、導入部では、希有な才能を持ちながら、負けるはずのないレオが格下相手との試合でまさかのKO負けを喫するシーンが登場するから、アレレ・・・？自分でもなぜあんなへボパンチを喰らったのかわからない彼は、試合後病院でMRI検査を受けたところ、脳神経外科医の境医師（滝藤賢一）に告げられた意外な診断結果は？

そんな導入部の展開を見ていると、また、その後に展開される新宿歌舞伎町における抗争を見ていると、一向に「初恋」を実感させるものは登場しない。しかし、レオの初恋のお相手は一体誰？そして、いつどんな出会いでそのお相手は登場するの？

## ■女性との出会いは？そのまま逃避行へ！これが初恋？■

そんな興味でスクリーンを追っていると、初恋の男と女の出会いは、「助けて！」と叫びながら大伴から逃げるモニカとすれ違ったレオが、咄嗟に大伴の腹にパンチを見舞うというシークエンスで登場する。しかし、倒れた大伴の懐からは警察手帳が飛び出てきたから、レオはビックリ。そのままモニカに腕を引かれながら現場を離れたが、レオには何が何やらサッパリわからないのは当然だ。その時点で既にモニカはヤクザの手によってクスリ浸けにされたうえ、毎日毎夜客を取らされていたから、この時モニカが突然逃げ出したのは、幻覚症状の中で登場してきた父親からだ。したがって、その時、ある事情でモニカと一緒にいた大伴は、突然逃げ出したモニカの後を追っていたに過ぎないから、そんな時にレオからあんな強烈なパンチを喰らったのは、ホントに運が悪かっただけ。やっと目を覚ました大伴は警察手帳がないことにあわてさせられたが、この時の大伴は策士の加瀬との綿密な打ち合わせのうえでモニカを同行していたから、今は何としてもモニカを捜し出すのが先決だ。もし、モニカを見つけられなかったら・・・？

他方、レオは訳のわからないままモニカとその後の行動を共にしたが、2人のその後の「逃避行」はどうなるの？藤原審爾の小説を映画化した『泥だらけの純情』（63年）は、吉永小百合演じる深窓の令嬢と浜田光夫演じるチンピラヤクザという異色の組み合わせの「純愛」だったが、本作も余命〇〇宣告をされたばかりのプロボクサー・レオとヤクザの手でクスリ浸けにされた性風俗嬢モニカとの異色の組み合わせだ。この時点では2人の逃避行が始まったばかりだが、さあこれから2人はどのような純愛に発展していくのだろうか。

## ■いま、人生で最高に濃密な一夜が、はじまる！■

『日本のいちばん長い日』（67年）は、天皇陛下の玉音放送を巡る1945年8月15日という激動の一日を描いた名作だった。それに対して、本作のパンフレットには、「最期に出会った、最初の恋」「いま、人生で最高に濃密な一夜が、はじまる！」の文字が躍っている、それに注目！

もともと、『ロミオとジュリエット』（68年）は、有名なバルコニーのシーンにおける最高に幸せな一瞬や、ちょっとした行き違いから生まれた文学史上最大の悲劇をスクリーン上にタップリ提示してくれた。しかし、本作のスクリーン上で展開されるのはその多くが、組長代行に代わってついに権藤が全面に乗り出してきた日本ヤクザと、権藤への復讐心に燃えるワン率いるチャイニーズマフィアとの全面抗争だから、三池流バイオレンスそのものだ。したがって、レオとモニカの逃避行の中で生まれてくるちょっとした初恋の芽生え（？）や、ぎこちない恋心の展開など、初恋の美しさは少ししか登場しない。しかし、『ロミオとジュリエット』や『泥だらけの純情』と同じように、この2人の心が次第に強く結

ばれ合っていく姿は、バイオレンスの演出を得意とする三池崇史監督もうまく演出しているので、それに注目！「人生で最高に濃密な一夜」なるものを、しっかり味わいたい。

ちなみに、『キネマ旬報』3月下旬特別号の「REVIEW 日本映画&外国映画」は、3人の映画評論家のうち1人は星3つだが、2人は星5つを付けて絶賛しているので、それも必読！

## ■今ドキ貴重なヤクザ映画のヤクザ抗争をタップリと！■

本作ラストのクライマックスでは、バカ広いホームセンターを舞台として、今ドキ貴重な三池崇史監督流バイオレンス演出による、日本ヤクザvsチャイニーズマフィアの抗争(銃撃戦)が展開されるので、それに注目。『無限の住人』では、木村拓哉演じる、死ねないことの苦しみと虚しさを背負った男による「三百人斬り」のクライマックスが見モノだったが、本作では、最後まで生き残った権藤とワンの、日本刀と青竜刀による頂上対決に注目！ホームセンターの中に追いつまされたのは、大量のヤクを持って逃げ回っている大伴刑事と加瀬の、利害のみで結びついていた最悪のコンビだが、幸いホームセンターの中は膨大な商品を載せた巨大な棚で仕切られているから身を隠す場所は多い。日本ヤクザとチャイニーズマフィアの双方から追われるこの2人は、そんな銃撃戦の中でいかに対処し、いかに防衛するの？そこに転がるある男の生首にはきつとビックリするはずだ。

他方、逃避行の中で初恋を展開中だったレオとモニカも、モニカのスマホに付けられていたGPSのために否応なくホームセンターの棚の影に隠れざるをえなくなってしまったからえらい迷惑だが、身の危険が迫ってくる中、はじめて拳銃を持ったレオはボクサーの本能も駆使しながらいかに対応し、いかにモニカを守るの？

本作は、そんな三池演出によるクライマックスをタップリ楽しみたい。そして、そんな中、主人公たちの初恋の行方は・・・？

2020(令和2)年3月9日記